

ニートの増加は日本社会の 構造的問題の縮図

野村総合研究所（NRI）は2004年10月にインターネットを利用し、ニートの増加に関する意識調査を行った（回答者数1000人、属性や詳細データについては<http://www.nri.co.jp/news/2004/041101.html>を参照）。その結果、単純な就労問題というよりも、現在の日本社会が抱える多くの課題を内包した複合的問題であることが、生活者の意識からも浮かび上がってきた。

増加するニート

「ニート」とは“Not in Education, Employment, or Training”の頭文字を並べた“NEET”からきており、「働こうとしないし学校にも通っていない。仕事につくための専門的な訓練も受けていない人たち」と定義されている。

厚生労働省が2004年9月に公表した『労働経済白書』の中では、「非労働人口のうち、特に無業者として、年齢15～34歳、卒業者、未婚であって、家事・通学をしていない者」という定義で該当する人数を算出した結果、「2003年の平均で52万人に上り、前年と比べて4万人増加している」としている。

また、内閣府の「青少年の就労に関する研究会」は、「家事手伝い」も勤労意欲のないケースが多いとしてニートに含めて計算し、2002年には85万人だったとする集計を公表している。

昨年秋以降、ニートに関する記事やニュースが格段に増え、公的セクターの就労支援などの取り組みも本格的に始まろうとしている。また、ニートと呼ばれる若者の実態に関する研究事例も紹介されるようになってきており、「ニートとは何？」と

いう状況から、「ニートの増加に対してどう取り組むか」という段階に移っているといえる。

ニートの増加に対する 生活者の認識

このようなニートと呼ばれる若者の増加を、一般の生活者はどのように捉えているのだろうか。ニートの増加について、「非常に大きな問題である」「問題である」と解答した

人は合わせて93%と、極めて高い比率となっている（図1）。

ニート増加の原因としては、「家庭」と回答した人（55.5%）以上に、「不況などの経済状況」と回答した人（64.9%）が多く（図2）、家族や友人にニートがいる場合にどうするかという問いに関しては、「本人と十分に話し合う」が最も多い回答（62.5%）であった（図3）。

また、ニートの増加が社会に及ぼす影響としては、「社会保障制度の崩壊」をあげる人が71.6%と最も多く、経済環境、就労環境、年金問題などとニートとを関連づけて捉える傾向がうかがえる（図4）。

さまざまな側面で捉えられる ニートの増加という社会現象

生活者は「ニートの増加」という社会現象をどのような思いで見ているのだろうか。全体的な傾向は上述したとおりだが、より詳細に生活者の思いを見るため、アンケート調査

図1 ニートが過去数年間で増加していることをどう感じるか

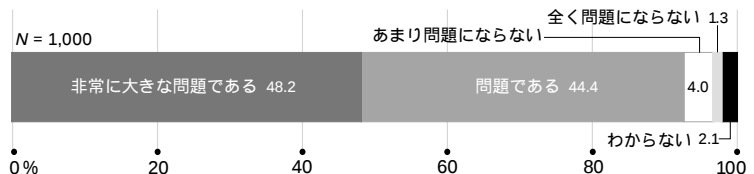
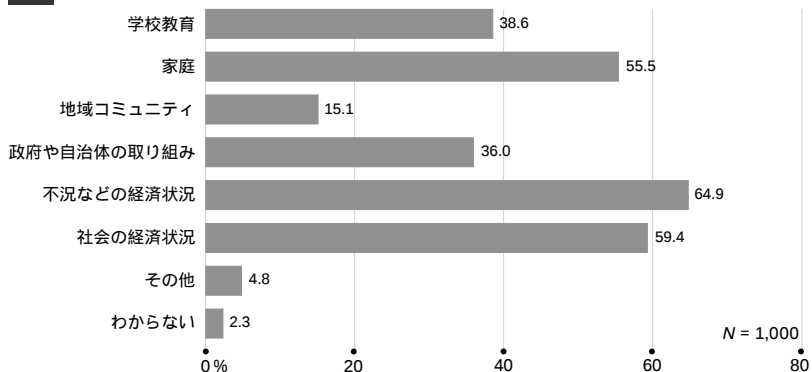


図2 ニートの増加の原因はどこにあるか（複数選択）



の自由記入欄に寄せられた意見を分析したところ、以下の3つの問題意識に集約することができた(図5)。これらは、生活者が日本社会に対して思い抱く危機感に重ね合わせることができると考えられる。

希望や生き甲斐の欠如などがニート増加の要因になっているという考え

希望や生き甲斐を見出せないことがニートの増加につながっているとする考えが極めて多い。たとえば、「サラリーマンとしての生活スタイルに希望を見出せない若者が多い」「働くことの意義を見出せない」「一所懸命頑張ることが無意味な社会になってきている」などの考えが社会に広まっていることを問題視しており、ニートの増加を表層的な問題ではなく、社会構造の深い問題として捉える層がかなり存在していることを示唆している。

家庭内教育や家族のコミュニケーションの問題がニート増加の要因となっているとする考え

ニートの増加を家庭内にその原因があると考える人は多く、「子どもを甘やかす親の責任が重大である」「無職で収入がなくても生活できる状況を許している家庭の問題」などと捉えている人は多い。また、家庭内での親子のコミュニケーション不足・欠如などから家族の絆の崩壊や地域とのつながりの低下に至っていることを問題視する考えもあり、ニートの増加を家族のあり方や地域コミュニティの見直しに結びつける傾向が浮き上がっている。

労働市場や社会構造上の問題としてニート増加を捉える考え

「就職環境が厳しく、就職を望んでも希望が叶わないため、結果としてニートという存在になってしまっている」という現状の景気動向と結び

図3 家族や友人にニートがいた場合にはどのような行動をとるか(複数選択)

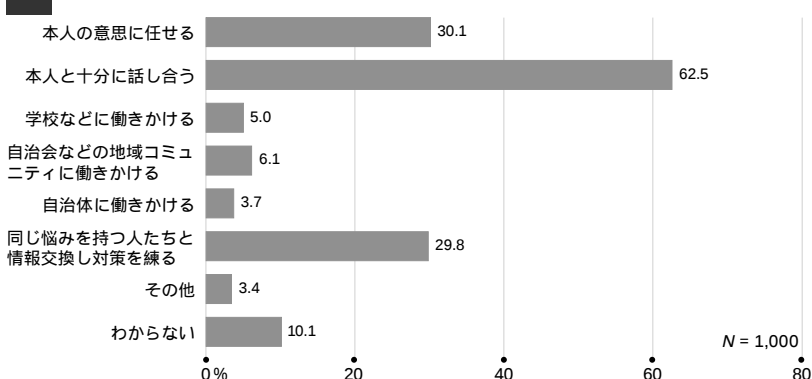


図4 ニートの増加は社会にどんな影響を及ぼすか(複数選択)

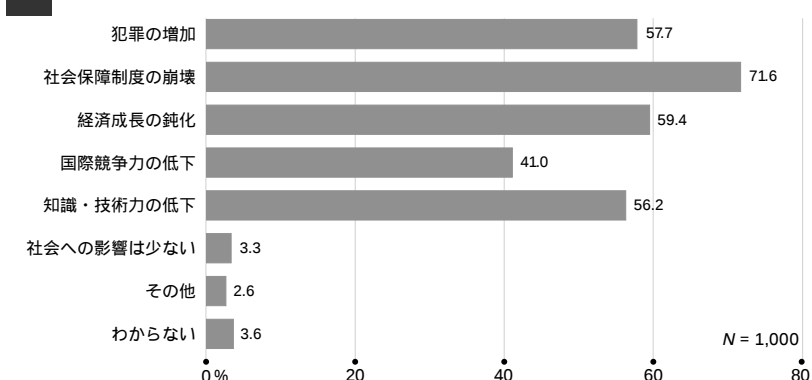
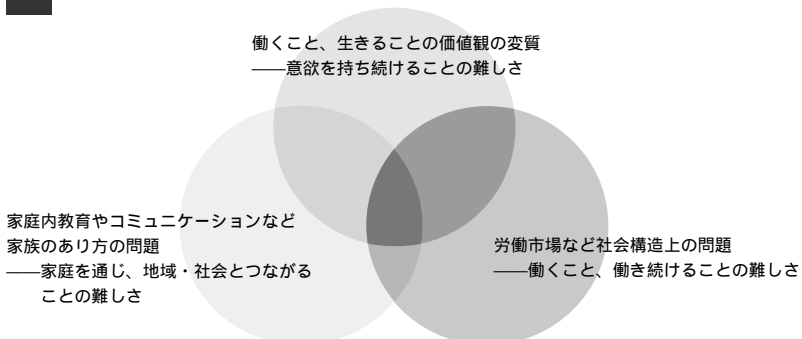


図5 「ニートの増加」という社会現象を通じて生活者が抱く問題意識



つけてニートの増加を捉える考えもある一方で、「若者の労働意欲を受け入れる場の減少」や「若者の労働意欲を育てる場の欠如」などを問題視する意見も多い。

このように「ニートの増加」という現象を通じて生活者の問題意識を見てみると、日本社会の抱える構造

的な問題が浮かび上がってくるといえるのではないだろうか。そして、社会の抱える構造的な問題の1つの発露としてニートの増加を位置づけ、社会的対策を検討していくことが極めて重要となろう。

野村武司(のむらたけし)
広報部広報課長